

大阪府保育士会だより

平成25年1月1日

第92号

# ほほえみ

大阪府社会福祉協議会

保育部会・保育士会

大阪市中央区中寺1-1-54

TEL 06-6762-9001



## 地域ととも ふれあい大切に

石津川保育園では今年度から1才未満の在園児と地域の親子を対象にベビーマッサージ教室を開いています。講師資格のある保育士と一緒にわらべうたに合わせ、親子で肌と肌をふれあうスキンシップを楽しみます。参加された保護者のみなさんから「毎日寝る前にベビーマッサージを実践しています。心地よいかスーッと眠ってくれるようになり

ました」「ベビーマッサージをしてあげると、今まではない笑顔を見せられました」などの声が寄せられています。

0歳・1歳児のふれあい運動会では、参加された保護者の方と一緒にわらべうたを歌い、ベビーマッサージを楽しみました。



## 心地よ～い ベビーマッサージ教室

多くの友だちと一緒に話を交わすなど親子の交流の場としても役立つです。これからは地域の親子とのつながりを深め、地域に根付いた園にしたいと願っています。

次回は1月末に予定。  
(堺市 石津川保育園)



今後子育て支援の担当保育士だけでなく、職員それぞれが子育て支援の役割を認識し、地域の保護者に安心して利用してもらえる雰囲気づくりを心掛け、地域に根ざした保育園を目指します。  
(枚方市 牧野保育園)

## 子育て支援シリーズ③

牧野保育園では未就園児の保護者を対象に子育て支援を進めています。当初年4、5回の実施から新たに内容の大幅な充実を図りました。親子の参加が増えてきたため、よりキメ細かな心配りを実現するためです。  
充実改善したのは、6か月児～1歳6か月児を対象とした「アンパンマンサークル」と1歳6か月児～就学前児が対象の「子育て広場」に年齢を区分けし、それぞれ月1回実施することになりました。

## 年齢別に「子育て広場」と「アンパンマンサークル」など区分け 看護師や栄養士の相談も

一人ひとりに  
を止め、  
な悩み  
の紹介  
など保  
みな様  
な相談  
を受け  
一人ひとりに

「アンパンマンサークル」は前期(4月～9月)、後期(10月～3月)の登録制。少人数で遊戯室に集まり、子育て中の保護者と保育士とがコミュニケーションを持てる場になっているのが特色です。

応じた対応を実践しています。その他、同年齢の子どもが園児と食事や排泄などの活動を共にする保育所体験、保育所を身近に知ってもらうふれあい体験(5か月児～8か月児)や枚方版ブックスタート(1歳誕生児)があります。1歳誕生児には枚方市から絵本が配布されています。

# 保育士研修会

保育士研修会が9月11日(大阪国際交流センター)と11月13日(社会福祉会館)にそれぞれ開かれました。主な内容は次の通りです。

〔9月11日〕

「絵画で感じる子どものころ」をテーマに大阪信愛女学院短期大学講師の舟井賀世子氏が講義されました。

舟井氏は、0歳児から5歳児の絵の発達の流れや絵には子どもの思いが表れて

近畿ブロック保育士会リーダーセミナーが11月12日、大阪府社会福祉会館で開催されました。近畿各府県市か



副会長で監事の三上智代氏の基調講演が行われました。午後からはサカ

切かを強調されました。

配りがまさかの時に大きな差になると述べられました。災害時に子どもたちに

おり、大人が勝手に判断してはならないこと、子どもの色使いは身近な人の影響を受けやすいことなどを指摘。例えば、ある子どもの絵の表現が黒色や黄色を使うことが多いので調べてみる。傾向として乱雑に描く

下に描くことが多いなどのパターンがあります。描画方法では、線が細く小さく描く子には自信をつけさせるため園内や家庭での工夫が必要と考えられます。

子や何度も消して描き直す子には、もつと褒めて認めてあげることが必要と強調されました。

## 保育実践に生かそう 様々なヒント与える 子どもの絵



子どもの絵から家庭環境、心理状態など様々なヒントを読み取ることができ、保育士はそれを保育実践にぜひ生かしてほしいと述べられました。

田知乃氏が講義されました。増田氏は初めに、後輩への指導や人間関係に悩みを抱えていませんかと参加者に問いかけられ、相手の行動に疑問や不満をこぼす前に「なぜだろう」と原因、根拠を考える習慣を大切にしたいと切り出されました。「後輩のためとはいえ、いきなり指導方針や態度を変えていいかわからないか。指導者の意図や計画をきちんと話すことがより相手へ伝わりやすく、相手にとっても受け入れやすくなる」と指摘、必要なことは曖昧にせず正確に伝え、かつプラスの印象を与える表現力を身につけることも指導者には必要と強調されました。

また、「自分は何が得意か」「本当のところ何をしたいのか」「自分のしていることに意味や価値が感じられるか」と常に自らに問いかけ、ぶれることなく目的に向かって進める考えが大切と述べられました。最後に、目先のことに振り回されたり、自分の意見を押し通すことにこだわらず、大きな視点で仕事や環境を受けとめ、いま何をすべきかを考えていただきたいと締めくくられました。



舟井賀世子氏

〔11月13日〕

「保育士育成指導における指導者のストレスマネジメントのために」をテーマに有有限会社レイズ取締役人材育成コンサルタントの増

寝る前のちよつとした準備を習慣にすること、家具や収納に少し工夫を加えることなど、小さな気

安全な水・食事を与えらるノウハウや坂本氏自身が就寝時必ず枕元においているバッグの中身なども披露されました。

## 防災は日ごろの備えから 子どもたちに食事を与えるノウハウも

近畿ブロックリーダーセミナーで

坂本廣子氏

公助ばかりをあてにせず、まずは自分自身を助けること(自助)が大切と述べられました。

「自分のしていることに意味や価値が感じられるか」と常に自らに問いかけ、ぶれることなく目的に向かって進める考えが大切と述べられました。最後に、目先のことに振り回されたり、自分の意見を押し通すことにこだわらず、大きな視点で仕事や環境を受けとめ、いま何をすべきかを考えていただきたいと締めくくられました。

(豊中市 アトリオとねやま保育園)



増田知乃氏



### 「輝け!子どものいのちと笑顔」をテーマに掲げ

#### 第46回全国保育士会研究大会

「子どもが豊かに育つ保育の実現」輝け!子どものいのちと笑顔」をテーマに、第46回全国保育士会研究大会が10月18、19の両日、鳥取県のとりにぎん文化会館とホテルニューオータニ鳥取などで開催さ

れ、全国から1046人が参加しました。開会式では、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課幼保連携推進室長の北山浩士氏が子ども・子育て関

わりに、全国から1046人が参加しました。記念講演では漫才師の宮川大助氏が登壇。「父母の役割」をテーマに、両親や小学校の恩師とのエピソードを披露され、デジタル社

園(寝屋川市)の中山ちあき氏が「乳児の担当制において考慮すべき保育士の

対応」について発表、熱心に意見交換が行われました。次回開催地は岩手県。

### 「人と人の信頼関係はアナログが一番」 記念講演で宮川大助氏

第56回全国保育士会研究大会が11月14日から3日間、沖縄コンベンションセンターなどで「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」をテーマに、1600人を超えた。次回開催地は愛知県です。

### 第56回全国保育士会研究大会に 1600人が参加!

#### ②他者に自己表現する

「みてみて」とアピール  
子どもは、泣くことや笑うこと、身体を使っての自己表現など非言語的言語活動をすることがあります。自分は生きていく存在であり、そのための欲求をはじめ、誰に訴えるのではなく訴えていきます。そのため表現は、泣き声ひとつで違いがあります。

子どもには、言語活動があり、理解してくれる大人に対する「他者への自己表現」が育っていきます。一方、大人は言語人間と思われがちですが、確かに言語は使いますが、それだけではありません。むしろ、大人も感覚や行動の中に他者との関係作りははじまって

おり、大人は、他者の行動に共鳴し、他者の経験を通してヒトとして認めていると考えられます。自己の尊敬とは、子どもには、たとえ未成熟な乳児

られていて力を生かすだけではなく、「一人ひとり」がもって生まれたヒトとしての力を信じていることが、乳児自身がヒトとして自己の尊敬に気づき自己を肯定す

て関わり、自己表現を行って行きます。一方、ヒトとしての尊敬を守られる体験がない子どもの場合、ヒトとしての生命を尊敬されたことがな

す。子ども時代に、ヒトとしての尊敬が守られる体験をすることは、子どものヒトとしての当たり前のことであり、保育の中核をなすことです。保育者は子ども

は次世代に向かって夢を抱くことでしよう。保育所の原体験が、次世代に継承する子育て文化となるように心より願っています。楽しかった・嬉しかったと思える一人一人の保育過程(経験)こそが、保育所の社会的責任であり、果たす努力することが課題です。子どもの生活に関わる保育所の先生方は、夢と希望をもち、あきらめないことが大切です。長時間化する保育所の保育は、超多忙な毎日になっていますが、ほんの少しの優しさを子どもにお願いいたします。子どもの原風景となる出会いを大切にしてください。

### 子どもの発達に即した

#### 保育について⑤

大阪総合保育大学 大方美香 教授



であつたとしてもヒトとして尊敬し、ヒトとして関わるということが大切です。自己の尊敬とは、乳児自身が胎児の時代からもっている潜在的な能力を敬い、一人ひとりにすでに兼ね備え

ることにつながります。自己への尊敬が育たないことには、乳児の潜在力の発露には至らないと考えられ、ヒトとしての尊敬を守られ

いたため、自己への肯定感や自信がなく、自分をどのよう表現したらよいかかわからないと考えられます。そのため、他者に対する尊敬や他者への自己表現がうまくいかない場合があります

す。子ども時代に、ヒトとしての尊敬が守られる体験をすることは、子どものヒトとしての当たり前のことであり、保育の中核をなすことです。保育者は子ども

は次世代に向かって夢を抱くことでしよう。保育所の原体験が、次世代に継承する子育て文化となるように心より願っています。楽しかった・嬉しかったと思える一人一人の保育過程(経験)こそが、保育所の社会的責任であり、果たす努力することが課題です。子どもの生活に関わる保育所の先生方は、夢と希望をもち、あきらめないことが大切です。長時間化する保育所の保育は、超多忙な毎日になっていますが、ほんの少しの優しさを子どもにお願いいたします。子どもの原風景となる出会いを大切にしてください。



みんなで遊ぼう！ブロックも、ままごともあるよ

# 異年齢の全園児が一齐参加 すべての部屋が遊び場



子どもたちが異年齢児と関わり合う経験が大切とはよく耳にしますが、当園では幅広い年齢児との関わりを経験できたらと、全園児が約40分間、一齐に様々な遊びを楽しむ企画を取り入れています。保育園だからこそできる試みです。

すべての部屋をまず開放し、コーナー遊びのように各部屋に大型ブロック、新聞紙遊び、ままごとなどを配置します。それぞれの部屋で年中・年長児がお兄さんやお姉さん、お父さんやお母さん役となり、小さい友だちを誘導したり、兄弟



カナヅチなどの道具体験

## 作ったゾ 未来につながる 卒園記念制作

卒園が近づくと、子どもたちと記念に残る卒園制作がスタートします。

何を作るか、子どもたちと相談し、「みんなで遊べるものがいい」との意見が多かったので、日ごろから大好きな縄跳びの練習台に決めました。

準備したのは大きな板と釘、カナヅチにノコギリ。扱いようではちょっと危険ですが、子どもたちに道具

の使い方を教えてくれる教材となります。ノコギリは「まっすぐ、力を抜けば動く」、釘は「力が強ければ指を打つこともあるし、弱ければ打ち込めない」といったことを学びながら、部屋に広がる木のいい匂い。慣れない手つきで、ゴシゴシ、トントン。だいじょうぶ？気をつけてね、などの声飛び交うなか、楽しい大工さん気分で、見事に仕上がりました。自分の手で体験しなければわからない素晴らしさです。



縄跳びの練習台

## 楽しい保育活動

姉妹やクラスの友だち二、三人が一緒に行動したり。いろいろな設定を組みながら、各部屋を巡って自由に遊べるのが特色です。

年上の園児からは「小さい友だちがなかなか話を聞いてくれず大変だった」「一緒について来てくれてうれしかった」といった声があり、年下の園児からは「お兄さんに剣を作ってもらった！」「お姉さんに

いろいろな所に連れて行ってもらったよ」などと楽しい声が返ってきました。

これからも多様な設定を工夫し、それぞれの年齢児が多くの経験を積むことができるよう取り組みたいと思っています。

(岸和田市 八木保育園)



## 編集後記

気がつけば、暦は辰年から巳年に変わり、新しい一年がスタートしました。

保育士会では、2月に今年度最後の研修会を控えております。また、25年度に向けより多彩な研修会を企画してまいります。

年長児もあと3か月足らずで卒園、在園児もそれぞれ

れ進級し、やり残したことがないかと保育の見直しをする時期になりました。新しい年度に向けて、今年も息のながい保育を目指し、寒さに負けず、子どもたちと共に頑張りますように。

お正月気分はきつちりと味わいながら。

(箕面市 常照寺隣保館保育園)

